



東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター  
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

研究課題(和文): 場所を共に耕すー「故郷」を初めて知るための対話

研究課題(英文): Cultivating Places Together: Dialogues to Know “Home” for the First Place

申請者名・所属先: 青山和佳・東洋文化研究所

海外招聘者名: なし

## 1. 研究の目的

本研究では、フィリピン、ミンダナオ島、ダバオ市に位置する Ateneo de Davao University 出身で現地在住の人文社会科学系若手知識人 3 名と、1)定期的に交流し、地元研究(ローカル・スタディ)としての地域研究について母語(ビサヤ語)で意見交換し、そのことを通じて、2)互いおよび自己の研究にかんする理解を深め、その上で、3)それぞれが研究者としてのパーソナルヒストリーを語り、4)その結果を3言語(日本語・ビサヤ語・英語)で出版、発信することを図った。

## 2. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者(青山和佳)が本学の英文出版支援事業のもとで 2020 年に出版した *An Intimate Journey: Finding Myself Amongst the Sama-Bajau* (Kyoto University Press + Trans Pacific Press) を携えて、その舞台となったフィリピンの知識人と対話を行い、近代科学の知識生産とは異なる知識生産の可能性を共に探る試みとして構想された。これにより、それぞれの「故郷」を新たなパースペクティブから捉え直すと同時に、その差異を越えて相互理解を深め、世界を理解するための小さくとも新しい窓を付け加えたいと考えたのである。Ateneo de Davao University を対象としたのは、フィールドワーカーとしての申請者の調査地がダバオ市であることに加え、従来あまりなされてこなかったフィリピン地方大学との積極的な交流を図るためであった。

## 3. 研究の方法

当初は、申請者の渡航による現地でのインタビューが構想されていたが、パンデミックのため、全面的に変更を迫られた。オンラインでパーソナルヒストリーをインタビューするために必要な信頼関係をつくる過程そのものをアート・プロジェクト化するという発想のもと、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科教授の岸健太氏に助言を得て、Socially Engaged Art(SEA)の概念・実践方法を援用した。最初の半年は、1) 毎月 1 回のオンラインセッション(セルフジャーナリズム的な動画制作、各自の研究発表、地域史文献の輪読で 90 分)、2)随時、ミンダナオ/ダバオに関わる日本人研究者またはフィリピン人研究者のゲストスピーカーによるワークショップを組み合わせ、つづく半年で、3)隔月 1 回、各参加者に対するパーソナル・インタビューを実施し、その後、ブックレット用の原稿の執筆を行なった。プロジェクトの全過程を通じて、参加者の心理的安全性を図ること、また心理学的な省察を得るために、Ateneo de Davao University の臨床心理学者かつセラピストにコンサルタントとして参加してもらった。



#### 4. 研究成果

本研究は SEA を援用したアート・プロジェクトであり、いわば実施過程という体験そのものが「成果」である。前述の毎月のオンラインセッションは合計 7 回、ゲストスピーカーによるワークショップは合計 4 回開催された。個々の会合の過程そのものを記述することはむずかしいが、総括として、これらの過程における参加者の経験と変容につき、HMC オープンセミナー(2022 年 3 月 25 日)において、日本語と英語のバイリンガルで報告し、日本国内のみならずフィリピンからの視聴者も得ることができた。オープンセミナー内容については、HMC ブックレット (Vol.18) の第一部として刊行予定である(2022 年 9 月末)。また、同じブックレットの第二に、プロジェクト参加者(臨床心理学者を含む)4 名が、プロジェクトを通じての変容や自らの地元研究への今後の取り組みについて語ったパーソナルヒストリーが収められている。また、本研究のもうひとつの成果としては、申請者と参加者との新たな共同プロジェクトが始まったことである。ひとつは、2022 Philippine Studies Conference in Japan (2022 年 11 月末開催)におけるパネル発表(本プロジェクト参加者の全員が参加)、もうひとつは、申請者が代表を務める科研費基盤(B)における「フィリピンの所得分配に関する人びとの認知」という研究(本プロジェクトの参加者 2 名が参加)である。

#### 5. 主な発表論文等

[学会発表]

\*アブストラクト受理・発表決定済み: “Encountering with Four Mindanao Researchers” at 2022 Philippine Studies Conference in Japan, 2022 年 11 月 26 日-27 日、東京大学駒場キャンパス開催予定.

[その他]

\*印刷中: 青山和佳編著. 2022. 『場所を共に耕す, Kuyog Pag-amuma ug Lugar, Cultivating a Place Together』東京大学ヒューマニティーズセンター(Booklet Vol.18)